



**03** 歴史展示推進のための  
具体的整備

**寺院・遺跡等での歴史展示**



### ■寺院・遺跡等における歴史展示の方針

#### ■歴史の解説

各回遊コースに位置付けられた寺院・遺跡等において、3つのテーマストーリーを踏まえ、90～95ページに記載した内容を基本とした歴史解説を行います。

### ■歴史的意義を楽しく分かりやすい手法で紹介

#### ■テーマと関連した歴史の解説

各寺院・遺跡では、万葉文化館でのテーマ展示と連携して、関連するテーマに即して、各寺院・遺跡等の歴史的意義について、様々な切り口から解説を行います。

#### ■見たくなる、分かりやすい手法で解説

上記のような歴史情報を、見たくなる、分かりやすい手法及び明日香の歴史的風土に配慮した手法で解説します。興味・関心を高め、楽しみながら知識や理解等を深めてもらい、歴史の体感・学習の広がりを創出します。

なお、英語だけでなく、中国語やハングルなど多言語表記についても配慮します。

(手法例) ■イラストや写真等を用いた解説看板

分かりやすい解説板を設置します。

■自分でめくる解説パネル

パネルの表に歴史に関する問いかけがあり、パネルをめくるとその答えが見えるようにします。

■解説板に内蔵された映像装置

解説板に仕込んだ映像装置で歴史情報を提供します。

■携帯電話で聞ける音声ガイド

解説板に表示されたQRコードを携帯電話のカメラで読み込むと、携帯電話で解説が聞けるサイトへアクセスできます。(外国語ガイドが容易)



<解説板イメージ>

# 歴史展示を行う寺院・遺跡等及び解説内容

	史跡地名	短時間回遊コース(徒歩)				解説内容
		1 (1時間)	2 (2時間)	3 (2.5時間)	4 (3時間)	
						<b>国家の成立 (8時間)</b>
1	飛鳥京跡苑池	■	■	■	■	○ 齊明朝に造られた庭園で、後に天武天皇が整備したとされ、天武紀にみえる「白錦後苑」や持統紀の「御苑」と考えられている。浄御原宮とともに飛鳥京を構成する中心的施設とされる。
2	伝飛鳥板蓋宮跡	■	■	■	■	◎ 舒明天皇の飛鳥岡本宮、皇極天皇の飛鳥板蓋宮、齊明天皇の後飛鳥岡本宮、天武天皇の飛鳥浄御原宮の遺構が重層していると考えられ、律令国家をめざす飛鳥時代の政治の中心地であった。 飛鳥板蓋宮は、中大兄皇子が蘇我入鹿を討った乙巳の変の舞台となった。
	◎ 飛鳥浄御原宮は、天武天皇が壬申の乱後に即位した宮であり、続く持統天皇もここで即位した。694年に藤原京に遷都するまでの約20年間、この宮を中心に律令国家の完成に向けた改革が推進された。					
3	飛鳥池工房遺跡		■	■	■	○ 飛鳥時代最大の工房遺跡で、「天皇」の木簡や日本最初の鑄造貨幣「富本銭」が出土。律令国家の成立に欠かせない品々を生産していた国営の総合工房であったとされる。
4	飛鳥寺		■	■	■	△ 飛鳥寺を中心に飛鳥の都が広がっていったと考えられ、乙巳の変後、中大兄皇子らは飛鳥寺を占拠し、改新政治が幕を開ける。近くの槻の木広場は中大兄皇子と鎌足出会いの場といわれている。
5	蘇我入鹿首塚		■	■	■	○ 天皇と並ぶような権勢を誇ったが、乙巳の変で殺害された蘇我入鹿の首塚と伝えられる。蘇我氏の滅亡によって飛鳥時代の政治は新たな展開を迎えることになる。
6	亀形石造物		■	■	■	△ 亀形石造物は、齊明天皇が造った両槻宮に関連する施設と思われる酒船石のある山のふもとに位置し、水に関係する何らかの祭祀が行われた場であると考えられている。
7	さかふねいし 酒船石		■	■	■	△ 齊明天皇が「両槻宮と呼ばれる離宮を造り」、さらに「(後飛鳥岡本)宮の東の山に石をかきかねて垣とする」と日本書紀に記されている「宮の東の山」に酒船石があることから、両槻宮に関連する施設とも言われている。
8	川原寺 (弘福寺(ぐふくじ))			■	■	○ 齊明天皇の菩提を弔うために中大兄皇子によって建てられたといわれる。寺は齊明天皇ゆかりの川原宮の跡地に建つとされる。
9	橘寺			■	■	○ 用明天皇の離宮があった場所とされ、用明天皇の皇子で、推古天皇の摂政として活躍した聖徳太子生誕の地と伝えられる。
10	石舞台古墳				■	△ 対立する大連の物部守屋を滅ぼしたのち、聖徳太子とともに推古天皇のもとで国政を助けた大臣・蘇我馬子の墓とされる。約30個の巨石を積み上げた巨大な横穴式石室をもつ7世紀前半ごろの古墳。
11	飛鳥水落遺跡				■	○ 中大兄皇子が日本で初めて製作した漏刻(水時計)の遺跡。漏刻台の二階に設置された鐘や鼓をついて人々に時を知らせることが国を統治する一つの方法であったと考えられる。
12	藤原鎌足誕生地					△ 乙巳の変の中心人物で、改新の政治を推し進めた中臣鎌足の生誕地と推定されている。鎌足はのちに天智天皇から藤原の姓と大織冠を賜っている。
13	飛鳥坐神社					

歴史テーマに基づくコース(自転車利用)

仏教の伝来と興隆 (6時間)		東アジア文化の受容と変容(7時間)	
		◎	百済の造園技術の影響を受けて造営。庭園には噴水施設があり、先進的な導水技術が用いられたと推測される。菴池の造営は唐の理念に基づくものとされるが、州浜を多用するなど日本庭園の特徴がすでにみられるといわれる。
		○	金・銀・銅製品、鉄製品、琥珀、水晶、硝子、漆等が出土し、飛鳥時代最大の国営工房であったと考えられている。炉跡は300基に達し、当時の最先端技術が集積されていたとみられる。
◎	蘇我氏によって建立され、仏教興隆の礎となった日本最初の本格的寺院。飛鳥四大寺の一つに数えられている。塔の心礎からは古墳時代の副葬品に類したものが数多く出土することから、信仰の対象が寺院へと移っていたことがうかがわれる。	○	百済から招かれた僧と技術者によって造営された日本初の瓦葺の礎石建物と考えられる。伽藍配置は高句麗や百済の様式に類似しているといわれ、朝鮮半島の技術や情報が複合して受容されたと考えられている。飛鳥大仏の名で親しまれる釈迦如来像は、渡来人の子孫、鞍作止利の作と伝えられる。
		◎	湧水井戸、小判形石槽、亀形石による取水遺構は、観勒によって伝えられた星占いの遁甲術によるような祭祀が行われた場ともいわれている。また、神仙思想に関わる施設とも考えられている。
		△	酒船石を中心にした石垣や土塁による人工の丘からは、水路を彫り込んだ車石も発掘され、水を用いた祭祀が行われていたともいわれている。
◎	飛鳥四大寺の一つに数えられる大寺院。この寺の建立が、7世紀後半に寺院が急増する一つの契機となったといわれる。壬申の乱の後、天武天皇が川原寺で一切経の書写事業を行っており、国の安定を仏教に祈願する源流が見られる。9世紀に空海が朝廷より川原寺を賜り、弘法大師ゆかりの寺といわれている。	○	一塔二金堂の独特の伽藍配置を持ち、礎石には瑪瑙(大理石)を用いるという豪華さだった。北方の寺域の工房跡からは、瓦を焼く窯跡や鉄・銅を溶かす鍛冶炉跡が出土し、大陸の先進技術を飛鳥の人々が身につけていたと思われる。
○	用明天皇の離宮を寺に改修。7世紀の中頃に塔が建てられ、天武天皇の頃に尼寺として栄えていたことがわかっている。僧寺である川原寺と対をなす尼寺とされる。	○	橘寺には、二面石と呼ばれる異国風の石造物があり、人の善悪二相を表したものと言われている。
		△	7世紀前半に唐の呂才が発明した四段式水時計を参考にしたと考えられる。唐の先新技術を用いて作られ、複雑な給水システムを持っていたとされる。
○	飛鳥神奈備とよばれた、明日香の鎮守社。日本書紀の天武紀に記録が見られる。		

	史跡地名	短時間回遊コース(徒歩)				国家の成立 (8時間)	
		1	2	3	4		
14	大官大寺跡						
15	山田寺跡 〈桜井市山田〉						
16	いかづちのおか 雷丘					△	万葉集に柿本人麻呂の歌「大君は神にしませば 天雲の 雷の上に 庵りせるかも」が残っている。雷丘を舞台に、律令国家を完成へと導いた天皇を讃えて詠ったものともされている。
17	おはりだ 小墾田宮跡					○	推古天皇が豊浦宮から移した宮で、朝礼を行う庭をもつはじめての宮とされる。隋の使者・裴世清を迎えた他、冠位十二階や十七条の憲法など重要施策がこの地で行われたとされる。雷丘東方遺跡の発掘調査では、墨書土器のほか、飛鳥時代の池や奈良時代の倉庫群も発見されている。
18	とゆら 豊浦寺跡 (向原寺)					○	日本最初の女帝・推古天皇の祖父に当たる蘇我稲目の邸宅があったとされ、592年、豊浦宮で推古天皇が即位することが飛鳥時代の幕開きとなった。宮跡の遺跡として、石敷をめぐらした掘立柱建物が検出されている。
19	甘樫丘					△	飛鳥寺や伝飛鳥板蓋宮跡などの飛鳥京一带に加えて、大和三山の中心に位置する藤原宮跡なども望むことができ、飛鳥時代の主要な場所を一望することができる。
20	甘樫丘東麓遺跡					○	強大な権力を誇った蘇我入鹿の邸宅「谷の宮門」またはその関連施設の跡と推定されている。入鹿が乙巳の変で殺害された後、父・蝦夷はこの上方にあった自邸「上の宮門」に火を放って自害。この入鹿邸も延焼したと思われる。
21	石神遺跡					△	国力増強に努めた斉明天皇が建てた迎賓館的施設といわれている。この地で外国使節をもてなし、儀式や饗宴を行ったとされ、国家の威信を示す施設だったと考えられている。
22	岡寺						
23	嶋宮跡					△	蘇我馬子の邸宅跡を宮にしたもので、草壁皇子の宮であったと伝えられている。発掘調査により一辺40mに及ぶ方形池が見つかり、池には石貼りの堤があったと考えられている。
24	坂田寺跡						
25	飛鳥稻淵宮殿跡					○	発掘調査により正殿と後殿や石敷広場等が見つかり、遺跡の造営が7世紀中ごろであることから、難波宮から飛鳥へもどった中大兄皇子が一時期宮んだ川辺行宮跡と考えられている。
26	南淵請安の墓					△	遣隋使として大陸にわたり、隋、唐で最新の知識を学び帰国した南淵請安の墓と伝えられている。南淵請安は、中大兄皇子や中臣鎌足に中国の学問や思想を伝えたといわれ、大化改新にも大きな影響を与えたと思われる。
27	天武・持統天皇陵 (檜隈大内陵)					△	律令国家体制を推し進めた天武天皇と、その遺志を受け継いだ持統天皇の合葬墓とされる。持統天皇は702年に没し、天皇としては初めて火葬にされた。

歴史テーマに基づくコース(自転車利用)

仏教の伝来と興隆 (6時間)		東アジア文化の受容と変容(7時間)	
◎	舒明天皇の発願によって造営された百済大寺が、天武天皇の時代に移建され、大官大寺と改称されたと伝えられているが、主な伽藍建築は藤原京の時代の後半に創建され、九重塔がそびえる大寺院であったといわれている。平城遷都とともに移転し、大安寺となった。		
○	蘇我氏の一族である蘇我倉山田石川麻呂の発願により建設開始。石川麻呂の自害(649年)によって一時中断するが、天武天皇の時代に伽藍が完成したと伝えられている。飛鳥四大寺に次ぐ寺格を持っていたといわれる。		
		○	聖徳太子が遣隋使を送り、中国から文化や情報を取り入れようとしていた頃には、飛鳥の小墾田に宮が置かれ、隋からの使者・裴世清も宮を訪れた。
○	推古女帝が即位した豊浦宮から小墾田宮に宮が移されたのちに、蘇我馬子が譲り受け豊浦寺を建立したと伝えられている。飛鳥寺とほぼ同年代の寺で、飛鳥寺の僧寺に対して、豊浦寺は日本最初の尼寺であったといわれている。		
		○	出土した須弥山石や石人像は水が噴き出る仕組みをもつ墳水石。石の内部は精巧に加工され、高度な導水技術が用いられていたとされる。須弥山は百済の造園師・路子工が伝えたといわれている。
○	草壁皇子の宮殿(岡宮)のあったところといわれ、義淵僧正が宮殿跡を譲り受け、国家安泰を祈願して創建したと伝えられている。義淵は703年に僧正に任ぜられ、奈良時代に活躍する行基や玄昉は、義淵の弟子といわれる。		
○	渡来系氏族・鞍作氏の氏寺とされ、豊浦寺と並ぶ飛鳥時代の尼寺といわれる。創建は、司馬達等の子・鞍作多須奈によると、その子で飛鳥大仏を造った鞍作止利によるともいわれている。		
		○	隋や唐で学び、帰国ののち東アジアの進んだ先進知識を伝え、中大兄皇子らにも大きな影響を与えた南淵請安の墓と伝えられている。
		△	天武天皇、持統天皇の合葬墓とされる八角形墳で、中国政治思想の影響があると推測されている。八角形には、天地八方を統治するという意味がこめられているといわれている。

	史跡地名	短時間回遊コース(徒歩)				国家の成立 (8時間)	
		1	2	3	4		
28	じょうりんじ 定林寺跡						
29	高松塚古墳 (高松塚壁画館)						
30	中尾山古墳					△	藤原京において大宝律令を制定した文武天皇の墓の可能性が高いと考えられている。
31	文武天皇陵					△	文武天皇は、草壁皇子と元明天皇の間に生まれ、持統天皇の譲位によって藤原京で即位した。在位中に大宝律令を完成させ、官位制を制定した。
32	くれはら(くりはら) 呉原(栗原)寺跡						
33	欽明天皇陵						
34	吉備姫王墓						
35	岩屋山古墳						
36	けんごしづか 牽牛子塚古墳					△	八角形の構造をもち、多くの宮の造営や運河工事などの多規模な工事を次々と展開したとされる斉明天皇の墓ではないかと考えられている。

### ▼明日香における拠点施設

	施設名	短時間回遊コース(徒歩)				国家の成立 (8時間)	
		1	2	3	4		
1	飛鳥資料館					○	飛鳥寺や川原寺、飛鳥浄御原宮など飛鳥京を再現した模型があり、飛鳥時代の都の姿を偲ぶことができる。
2	キトラ公園 (平成28年度供用予定)						
	(キトラ古墳)						
	(檜隈寺跡 (於美阿志神社))						

歴史テーマに基づくコース(自転車利用)

仏教の伝来と興隆 (6時間)		東アジア文化の受容と変容(7時間)	
○	檜隈を本拠地とする東漢氏の勢力範囲内であり、出土した瓦が檜隈寺のものと同様であることから、東漢に名を連ねる氏族の氏寺であったと思われる。寺の創建は、飛鳥寺からやや遅れる7世紀前半と考えられている。		
		◎	石槨の天井や壁面に描かれた日月像や星宿図、四神図などには、古代中国思想の影響がみられる。東西両壁には人物群像が描かれ、当時の文化の様子を知ることができる。
		△	石槨内面は丁寧に磨かれており、朱彩が施されており、八角形墳、火葬墓の観点から文武天皇の墓の可能性が高いとされており、八角形墳には中国思想の影響があると考えられている。
○	呉原は呉人が住んでいたことに由来する地名で、寺は591年に渡来系氏族の坂上大直駒子が創建したといわれる。僧の道昭がはじめて火葬された地と伝えられている。		
△	百済の聖明王から仏教の公伝をうけ、豪族たちに仏教崇拝の是非を諮った欽明天皇の墓とされる大型の前方後円墳。		
		△	欽明天皇の孫で、皇極・孝徳の母にあたる吉備姫王の陵墓。敷地内の四体の猿石は、江戸時代に欽明天皇陵の南の田から移されたもので、伎楽の登場人物を象ったという説やペルシャ人を象ったとする説などがあり、饗宴施設におかれたものと考えられている。
		△	7世紀前半の古墳で、下段部分が方形で、上段部分が八角形の二段築成と考えられ、中国政治思想の影響があると推測されており、斉明天皇などを被葬者とする説がある。
		△	八角形の構造をもち、斉明天皇の墓ではないかと考えられている。八角形の墳墓は中国政治思想の影響と考えられている。

歴史テーマに基づくコース(自転車利用)

仏教の伝来と興隆 (6時間)		東アジア文化の受容と変容(7時間)	
○	蘇我倉山田石川麻呂の発願により建てられた山田寺跡から出土した回廊が復原展示され、古代の木造建築の姿を見ることが出来る。	○	亀石、須弥山石、石人像などの巨石レプリカの展示あり。日本書紀の記述によると、斉明天皇時代に須弥山のもとで饗宴を催したとの記述がある。この記述を証明するように石神遺跡から発掘された須弥山石をはじめとした石造物からは、東アジア文明の科学思想や技術の影響を見ることができる。
○	園内の施設において、史跡「檜隈寺跡」などに関する情報提供、解説がなされ、飛鳥仏教の一端を学ぶことが出来る。	◎	周辺一帯に大陸の技術をもたらした渡来人の里があったとされる園内の施設において、当時の飛鳥の文化や技術を学ぶことが出来る。
		◎	弓削皇子または高市皇子の墓とされるが、被葬者は特定されていない。石槨天井の日月像や星宿図、壁面の四神図などには古代中国思想の影響がみられる。天井の星宿図は現存する最古の本格的な天文図とされ、東アジアの科学知識が伝わっていたことが読み取れる。
○	渡来系氏族・東漢氏の一族である檜隈氏の氏寺であったと伝えられる。寺跡からは7世紀前半の瓦が出土しており、飛鳥時代前期に渡来系氏族によって寺院の建立がはじまっていたと考えられる。	◎	檜前(ひのくま)の辺りは、渡来系の氏族・東漢氏の居住地であったといわれている。於美阿志神社は、東漢氏の祖である阿知使主を祀っていると伝えられている。

